

村岡正嗣レポート

現地分科会「富士山世界遺産センターと自衛隊東富士演習場をめぐる」

この現地分科会の見どころは「世界遺産と軍事的施設の対比」にあります。静岡駅を出発した大型バスが最初に到着したのは、富士宮市にある静岡県立の博物館＝「静岡県富士山世界遺産センター」です。外観は「富士ヒノキ」を使用



した木格子で富士山を模したフォルム、しかも逆さ富士で、富士山麓の湧水をひいた前面の水盤に映り「正富士」に見えるデザイン（設計：坂茂建築設計）が目を引きます。水盤には鳥居も建てられていて富士山本宮浅間大社との連携が図られて

います。2013年6月にユネスコの世界文化遺産に登録された「富士山—信仰の対象と芸術の源泉」を後世に守り伝えていくための拠点施設で、館内は北棟・西棟・展示棟から構成され、展示棟は四季の富士登山を疑似体験できるようスロープを登る構造です。最上階では本物の富士山を一望できるはずでしたが、生憎、台風の影響で雲がかかり富士山は見るできませんでした。残念。この信仰の山「富士山」の麓に米軍キャンプと自衛隊駐屯地と演習場があり、富士山に向かって実弾を使った火力演習が行われているのです。



バスはその現場へと移動します。途中から説明者として「オスプレイに反対する東富士住民の会」の渡辺事務局長が加わり東富士演習場を見学しました。東富士演習場は、陸上自衛隊の演習場では北海道の矢臼別演習場に次ぐ全国第二の広さ＝8,807haで東京山手

線がスッポリ入るほど広大です。御殿場市、裾野市、小山町の2市1町に位置します。民公有地の割合が多いことが特徴で、1957年には「東富士演習場地域農民再建連盟」が結成され、「自衛隊立入禁止請求訴訟」の戦いの歴史を持ちます。「東富士演習場使用に伴う関係市町との行政に関する協定」が締結され現在に生きています。渡辺事務局長の説明では演習場内には市道もあるが、協定では誰一人として武器を所持して歩くことは出来ないとなっている、とのこと。又、住民の生活道路でもあることから、立入禁止の看板はあるが、現地の

人は自由に往来している。他県ナンバーは直ちに止められるが、との説明でした。バスは演習場内へと進み、自衛隊の戦車を間近で撮影し、トーチカには中まで入って見学、8月に開催予定の火力演習場にも入りましたが、さすがにここは警備の自衛隊員に見咎められ退去を求められてしまいました。



広大な東富士演習場には米軍基地があります。沖縄のキャンプ・コートニーに司令部を置く米第三海兵遠征軍です。通称「キャンプ・富士」（地位協定2条1項aによる米軍専管基地・117ha）と呼ばれています。日本本土に初めてオスプレイが着陸したのがこの米軍基地とのことです。渡辺氏らの住民の会による米軍の実弾砲撃訓練の監視活動は、1997年から続けられていて砲弾の弾数まで数え把握していることには驚かされました。勿論、オスプレイの監視も続いています。

民有地が多いことから、防衛省から地権者へ支払われる地代は総額約90億円。これ以外にも、所謂、基地マネーがあり、そうしたお金で小学校のグラウンド整備やコミュニティー施設等が建設されています。休憩に立ち寄った「富士山樹空の森」もその一つで、日曜日とあってか大勢の子どもたちで賑わっていました。富士山を巡る環境や歴史の展示と並んで、自衛隊の活動がごく自然の形で横並びに展示されています。お土産物コーナーには「断固日本」「来るなら来い」などと書かれたクッキーや菓子、自衛隊ストラップなどが並び、無邪気にそれを手にとる幼児を見て複雑な思いでした。

8月予定の火力演習公開での見学者は2万人、毎回、参加申込みが殺到し大変な倍率で抽選とか、世界遺産の富士山の裾野で実弾訓練、しかも、その見学は大変な人気。帰路に雲の間に輪郭だけ見せた富士山はこのことをどう思っているのだろうか。複雑な気持ちで静岡駅へと戻ってきました。参加者全員が大きな宿題を課せられた分科会でした。